

チーム名：スマイルオレンジチーム元町④番出口



会場：東区第1地域包括支援センター2階会議室

開催頻度/時間：毎週水曜日 13：00～17：00

チームメンバー数（参加者実人数）：本人8人、サポーター11人、その他3人

活動内容

本人の希望を実現する取組
「外に出かけたい
（お花見）」を実現



・本人の「出かけたい」「やりたいこと」を定例会で話し合いお花見を計画。待ち合わせ場所、時間や公園でできそうなことをチームで検討⇒モルックに初挑戦！「楽しかった！」「またやりたい！」 サポーターから地区のモルック大会の提案⇒「チームオレンジ」参加、本人2名、サポーター5名で参加！チームの応援も力となり、1位抜けしました！



個別マッチングの実施

・拠点まで1人では不安、サポーターと一緒になら参加できる！



・紅葉を見に豊平公園へ屋外レクを実施。地下鉄でサポーターと一緒に来ました



工夫点

関係機関とのネットワーク

【いきいきフェスタ：イオン元町】 認知症の普及啓発活動



区、区社協、介護予防センターと共催の普及啓発イベントに参加
サポーターと一緒にチームオレンジのチラシ配布、チームで作成した活動報告ポスターについて周知活動、認知症に関するアンケートを実施

認知症カフェへの参加

第2水曜日開催

毎月1回、認知症カフェにオレンジサポーターが支援を継続している。参加者と交流を図りながら見守りやゲームの手伝い等を行っている



チームメンバーよりひとこと★チームのアピールポイント★

本人から

「麻雀は楽しいです！自分にはあってるみたいです」

「運動はできないけど、みんなで話をするのが楽しい、話を聞いてもらえる、元気をもらっています」

「朝にオレンジがあると電話をもらえるので参加できてます」



オレンジサポーターから

◇チームオレンジの活動が楽しみで水曜日が待ち遠しいです
◇認知症になっても、ここに来て将来助けてくれる仲間ができて良かったです
◇チームオレンジの活動報告ポスターを本人と一緒に作成し、啓発活動を行っています！
ご興味のある方、見に来てください！

オレンジコーディネーターから

チームオレンジの活動が地域に少ずつ広がってきています。本人参加も増えており、オレンジサポーター・認知症サポーター医や地域の関係機関などの協力により活動を継続しています。

チーム名：さくらオレンジサロン



会場：グループホーム 満快のふる郷 さくら東苗穂

開催頻度/時間：毎週木曜日 13:30～15:30

チームメンバー数（参加者実人数）：本人3人、家族0人、サポーター6人、その他3人

活動内容

本人の希望を実現する取組を行っています。

- ・「喫茶店に行ってコーヒーを飲みたい」
- ・「衣服や下着を買いに出かけたい。」
- ・「パッチワークが趣味なので、作品を作って飾りたい」

ミニ認知症勉強会を実施しています。

- ・漫画を用いてテーマ別を実施し、家族介護者やグループホーム管理者より実際のケアのお話を聞いています。



グループホーム入居者様との交流の時間を設けています。

- ・事前に、参加ができそうな入居者様のご紹介をもらい、オレンジサポーターさんと一緒にお誘いに行っています。
- ・基本的には会議室で交流をしていますが、ホームのリビングで入居者様との交流を楽しむことも少しずつ増やしています。昨年末は、オレンジサポーターさんがホームの皆様へ、南京玉すだれを披露してくださりました。特技を披露してもらうこと等も取り入れていきたいと考えています。

工夫点

関係機関とのネットワークづくり

・拠点地区町内会長が理解・協力してくださり、会長自らパッチワークの先生をしていただいたり、気になる方がいたときには情報提供をいただく等連携を図っています。

拠点地区民生委員の皆様も、一度は参加！と来てくださり、グループホームのイメージが変わった。との感想が聞かれました。

地元のお店・事業所との連携

・近隣喫茶店、衣料品店が事業趣旨を理解してくださり、快く対応いただきました。

衣料品店では

- ・休憩スペースの情報提供
 - ・業務用エレベーターの利用（必要時）
 - ・混み合ったときはレジを増やして対応等
- ◎事前準備いただき、安心して買い物できました。



チームメンバーよりひとこと★チームのアピールポイント★

本人から



「ちょっとしたことをお話できる仲間が増えてうれしいです。」「私も役に立てるのはうれしいので、皆さんと一緒にボランティアを続けたいと思っています。」「話すことも大好きで、歌うことも大好きで、誰とでも打ち解けられる性格なので、もっと仲間を増やしたいです。」

オレンジサポーターから



「自分も認知症になりうると思ひ、勉強会に参加しました。身近な地域の仲間ができたことが、参加してよかったことです。」

「相手の話をゆっくり聞いてあげられる自分になりました。」

オレンジコーディネーターから



入居者様との交流の時間は、とてもやさしさであふれており、オレンジサポーターさんの声掛けや接し方は、私自身も勉強になると感じるほどです。最初は不安を口にされていたサポーターさんも多かったですが、今では頼れる存在です。ご本人もボランティアとして参加してくださり、入居者様への声掛けや準備や片付けなども手伝ってくださり、ムードメーカーでもあるため、チームを明るい雰囲気してくれています。参加して下さる方の理解が、認知症の方にもやさしい地域づくりにつながることを感じています。

チーム名：にこにこオレンジクラブ



会場：豊生会リハビリ・医療・介護総合相談センター（内）

コミュニティサロンふらっとステーション考流学舎

開催頻度/時間：月1回 第2水曜日 午後13:30～15:30

チームメンバー数（参加者実人数）：本人0人、家族0人、サポーター9人、その他4人

活動内容

認知症になっても大丈夫！な取り組みを行っています。

「もしもカードの作成」「QRコード入りキーホルダーの作成」

・もし住所や電話番号などをちょっと忘れた時に利用できるカードやキーホルダーを作成しています。

・かかりつけ医や緊急連絡先等も記載し、突然調子が悪くなったり、倒れたとき、災害対策にも活用できる内容としています。



認知症普及啓発品を作っています。

・お裁縫が得意なオレンジサポーターに先生になっていただき、参加していただくオレンジサポーターには自分好みのマイロバ＝「ロバ隊長」を作成してもらい、愛着をもって身に着けていただいています。

・また男性の方には「ロバ隊長ストラップ」を作成してもらっており、スーパーで認知症普及啓発の際や認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の際に配布しています。

工夫点

関係機関とのネットワークづくり

- ・東区内5か所の医療機関に周知し、理解・協力を得られています。
- ・認知症ご本人の参加につながるように、ご本人・家族にむけたメッセージを入れた拠点のリーフレットを作成し、周知協力をいただいています。



チームメンバーよりひとこと★チームのアピールポイント★

「今日用事があるのと行くところができるのは楽しみです。」

「自信がありませんが、私でも役に立つのであればと思って参加をしています。」



「認知症のことをもっと勉強して、認知症になっても暮らしやすいように、何か自分たちでもできることをもっとしていきたいです。」

オレンジサポーターから

オレンジコーディネーターから



60代～90代の幅広い年齢の方や男性も参加してくださっています。90代の方を筆頭に元気な方が多く、笑い声とおしゃべりでかなり賑やかに過ごしています。本人参加登録がなく、本人の希望を叶える活動はできていませんが、来ていただいたときには、にぎやかに明るく迎えてくれるチームです。

「私が認知症になったらよろしくね」等よく会話の中で聞かれており、もし認知症になったらとわがごととして活動しており、備えの大事さを共感し、認知症になっても大丈夫！な備えについて考え、活動をしていく予定です。

チーム名：スマイルオレンジチーム ケアセンター栄町

会場：ケアセンター栄町 4Fコンベンションホール

開催頻度/時間：金 9：30～12：00

チームメンバー数（参加者実人数）：本人1人、家族6人、サポーター5人、その他40人

活動内容

「認知症介護者のつどい」を定期開催

月1回は「認知症介護者」のつどいを開催。参加した家族介護者の介護体験を傾聴し、また家族介護者同士が情報や体験を共有できる場となっています。オレンジサポーターがやさかな雰囲気を作り出しており、家族介護者が気兼ねなく話せる場となっています。



認知症普及啓発活動

認知症普及啓発イベントとして、令和7年度は拠点活動の中で、映画上映会、VR体験会、スーパーでの広報物の配布を企画・実施しました。活動の中でオレンジサポーターが、事前準備から打ち合わせに参加してくださったり、配布物の準備を一緒に行いました。



工夫点

より参加者主体の活動を目指して

つどいの後はオレンジサポーターとオレンジコーディネーターで打ち合わせを行い、参加した家族介護者の話した内容を共有したりしています。打ち合わせの中で、オレンジサポーターは自分の接し方が良くなかった、次はこうしていきたい、などそれぞれ振り返られており、オレンジサポーター同士の研鑽の機会となっています。当初「自分は何もできない」とおっしゃっていたオレンジサポーターが、今は積極的に参加した家族介護者に関わってくださるようになったり、オレンジサポーターから「次はこんなことをしたい」といった意見が聞かれるようになりました。オレンジサポーターの提案から、茶話会だけでなく、オレンジサポーターが持参したゲームなどを参加者皆で行ったりもするようになりました。できるだけ参加者が自分の意見を出せる様、話し合いの中では雰囲気づくりに注意したり、オレンジコーディネーターがオレンジサポーターと個々に話す機会を作るように心がけています。



チームメンバーよりひとこと

家族から

- ・同じ境遇の人と話ができてホッとした
- ・参加を続けてオレンジサポーターとの付き合いも長くなり、居心地の良さを感じている
- ・いつか本人も一緒に連れてきたい



オレンジサポーターから

- ・参加してくださる家族が少しでもこの場で話すことで家に帰ってまた頑張るための力になれば、と思って関わっている
- ・自分の体験談からこうした方がいい、と押しつけてしまいがちなので気を付けている
- ・認知症について触れることで、日々自分自身の学びになっている



オレンジコーディネーターから

オレンジサポーターの皆さんが、参加する認知症ご本人やご家族の助けになりたいと積極的に寄り添ってくださる姿勢に、こちらが日々学ばせてもらっています。家族介護者が心を開いて下さるのは、間違いなくオレンジサポーターの皆さんが作り出す雰囲気がよいからです

チーム名：スマイルオレンジチーム ハッピーハッチ

会場：栄町中央商店街コミュニティプラザ ハッピーハッチ 会議室

開催頻度/時間：第1水 13：00～16：00

チームメンバー数（参加者実人数）：本人1人、家族1人、サポーター4人、その他36人

活動内容

チームオレンジ活動の活性化を目指して

令和7年7月より、2カ所目の拠点として立ち上げています。地域住民に広くチームオレンジの活動を知ってもらうため、様々な分野から専門家の方を講師としてお招きし、専門分野の講話の中で認知症に関連したことを学んだり、健康測定会の開催などを行ったりしながら、活動の中でチームオレンジの事業の紹介や、一緒に活動していく仲間を募集している旨呼びかけていきました。

※会場の閉鎖により令和8年3月で活動終了となりました



工夫点

会場の選定と特色を生かす

青色の方が講師です→

2カ所目の拠点の立ち上げを検討するにあたり、1カ所目の拠点に参加しているオレンジサポーターが様々な地区から参加していたことから、公共交通機関でも比較的アクセスしやすく、色々な地区から集まってもらえればと思い、エリアの隣接している場所にあったハッピーハッチをお借りさせていただくことになりました。

会場がコンパクトなため、参加者同士の距離が近くより交流を深めやすいと感じたことから、講話にお呼びした講師の方にも参加者の皆さんの輪に入ってもらえるような座席についてもらうようできるだけ調整しました。実際参加者と講師がざっくばらんに交流する場面が多く見られました。



当事者参加

認知症当事者の方は「自分がこうしたい」というよりは「皆と一緒に参加したい」という意向が強かったため、当初は周囲に当事者としては知らせずに参加していました。徐々にサポートが必要と感じる場面が増えてきたため、ご家族の同意を得てオレンジサポーターとは状況を共有し、オレンジコーディネーターや包括職員と共にオレンジサポーターが当事者の方のサポートができる体制で活動に臨むようになりました。

チームメンバーよりひとこと

本人から

昔から知っている場所で行きやすい
参加する皆さんと一緒に自分も色々なことを学んでいきたい



オレンジサポーターから

・当事者の方が心地よく参加し続けられるよう、活動に参加する認知症当事者の方をさりげなく支えていきたい
・何もないと自宅に閉じこもりがち。こういった場所で皆とざっくばらんに話ができるのがありがたい



オレンジコーディネーターから

古くから馴染みのある場所ということで参加して下さった近隣住民も多く、地域に愛された場所で活動できなくなるのは大変残念ですが、ここでの経験を次に生かしていきたいと考えています。

